避難所の開設・運営

城北校区防災連絡会

発　表　内　容

1　はじめに

2　防災連絡会設立と避難所開設・運営のための組織

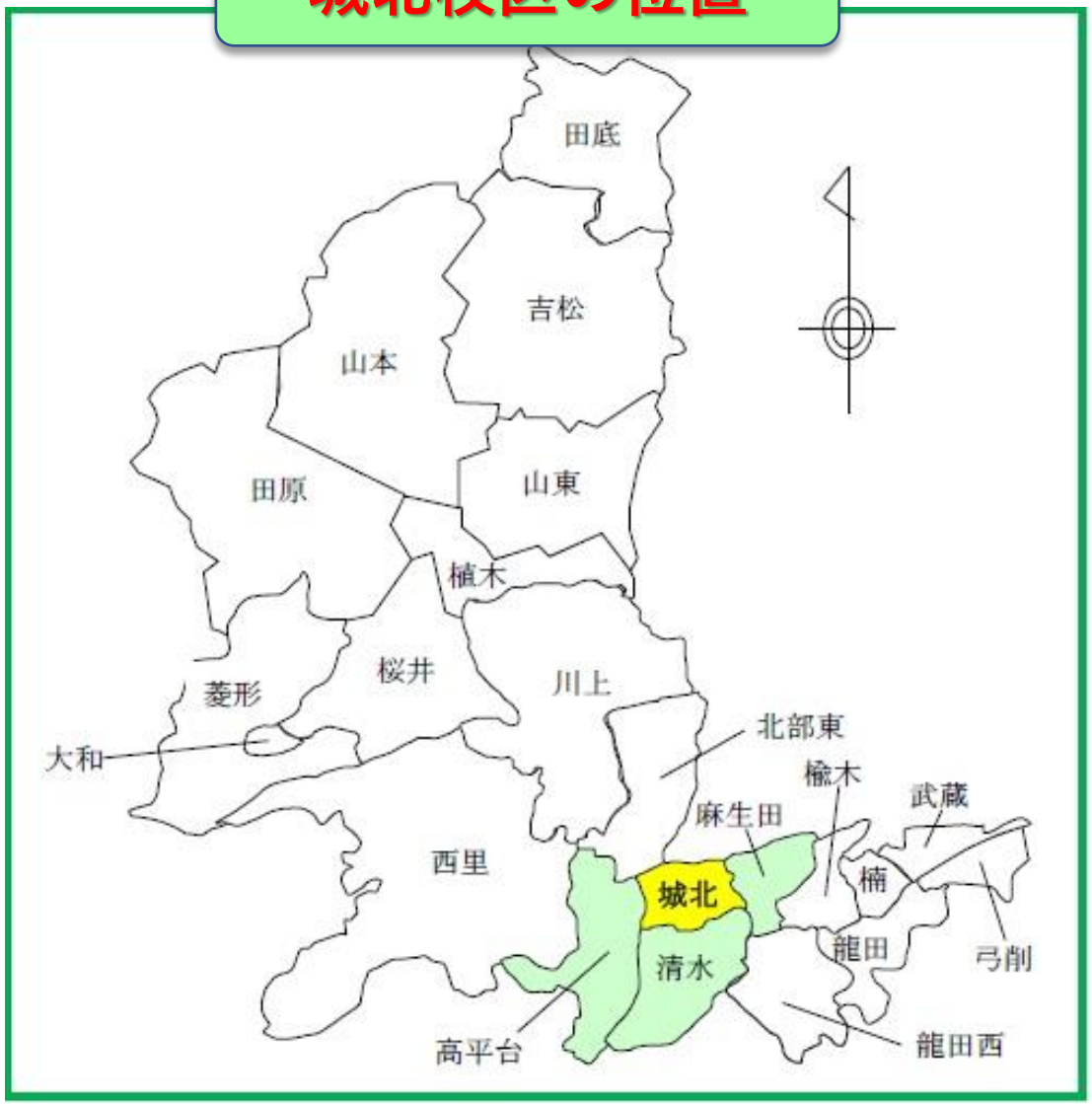
3　これまでの防災訓練の実施状況とその成果

4　今後の課題と対策

5　まとめ

1　は　じ　め　に

城北校区の位置



人　口	世帯数
約9300人	約4800世帯

年齢区分別人口	
0 歳～14歳	約1100人
15歳～64歳	約6000人
65歳～74歳	約1000人
75歳以上	約1200人

指定避難場所

① 城　北　小　学　校

② 清　水　中　学　校

２　防災連絡会設立と避難所開設・運営のための組織

平成28年　熊本地震発災

令和元年11月「城北校区防災連絡会」の設立

26名

城北校区防災連絡会

平時

災害時

城北小学校 避難所運営委員会

約60名

- 総務・情報班
- 救護班
- 福祉班
- 食料・物資班
- 環境・衛生班
- 警備班

清水中学校 避難所運営委員会

約50名

- 総務・情報班
- 救護班
- 福祉班
- 食料・物資班
- 環境・衛生班
- 警備班

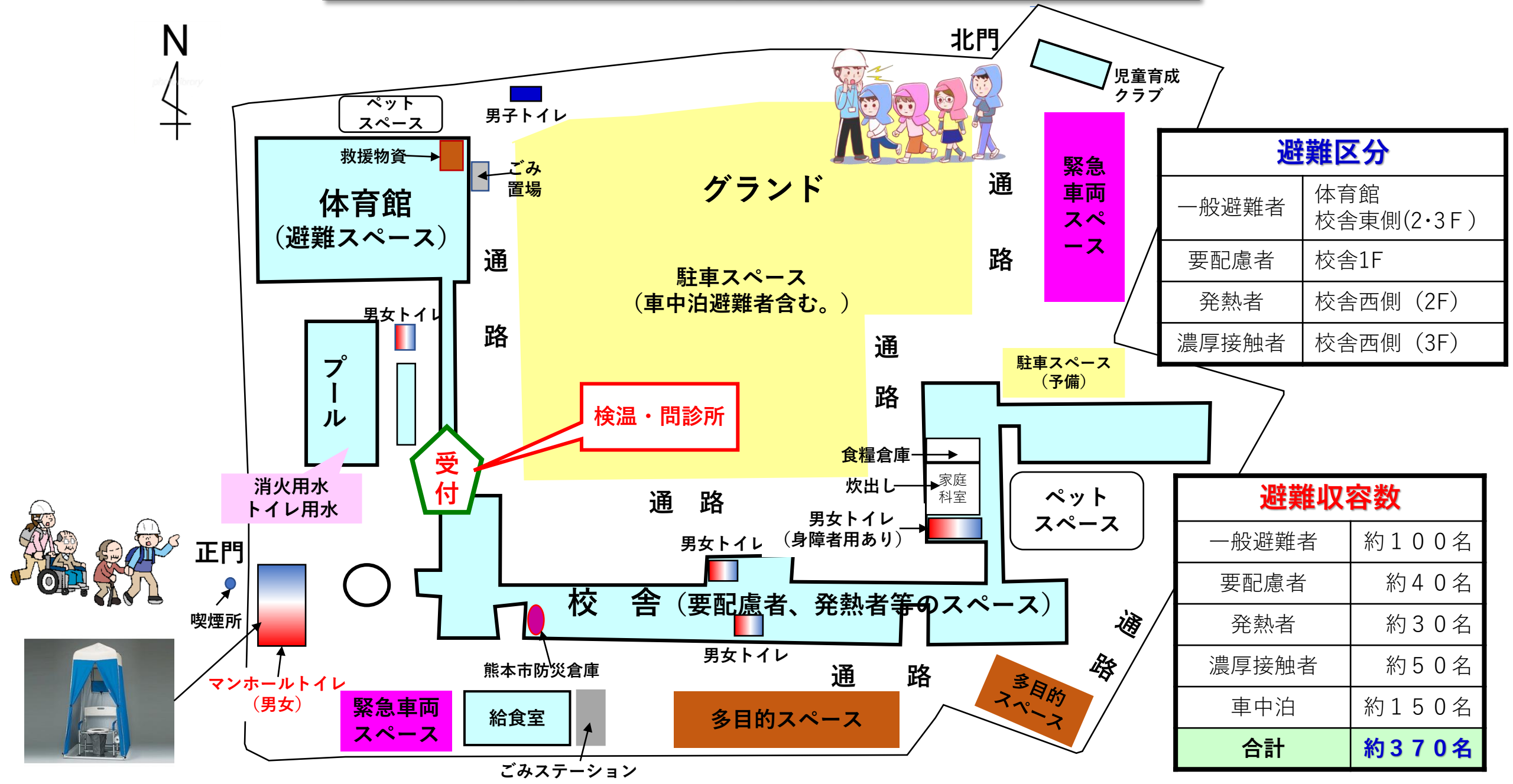
３　これまでの防災訓練の実施状況とその成果

当初の訓練目標
（設立～５年後）

大規模震災発生時に、**各避難所運営委員会の勤務者及び一部の避難者の協力**を得ながら、避難所の**各施設等を開設**し、**発災から3日頃**までの初動において、**各班の機能が発揮**でき、避難所としての**運営が概ね実施できるレベル**に到達する。

年度	主な訓練成果	参加者数	備　考
令和２年度 （8月）	①避難所開設手順の確認 ②校内のレイアウトの作成 ③防災倉庫の食料・物品等の確認	約１０名	コロナを考慮しない避難所開設・運営
令和３年度 （4月）	①「体育館等の避難スペース（レイアウト）及び駐車場等」の検討・設定 ②「福祉避難室（要配慮者用）」の検討・設定	約１５名	コロナ禍での避難所開設・運営
令和４年度 （10月） 赤：4年度新規	③「保健室（コロナによる発熱者等）」の検討・設定 ④「発電機の操作（停電対策）」の習得及び「マンホールトイレ」の設置場所の確認等 ⑤「パーテーション」の設置要領の習得	約２０名	①コロナ禍での避難所開設・運営 ②熊本県民テレビの取材・放映（てれビタミン）

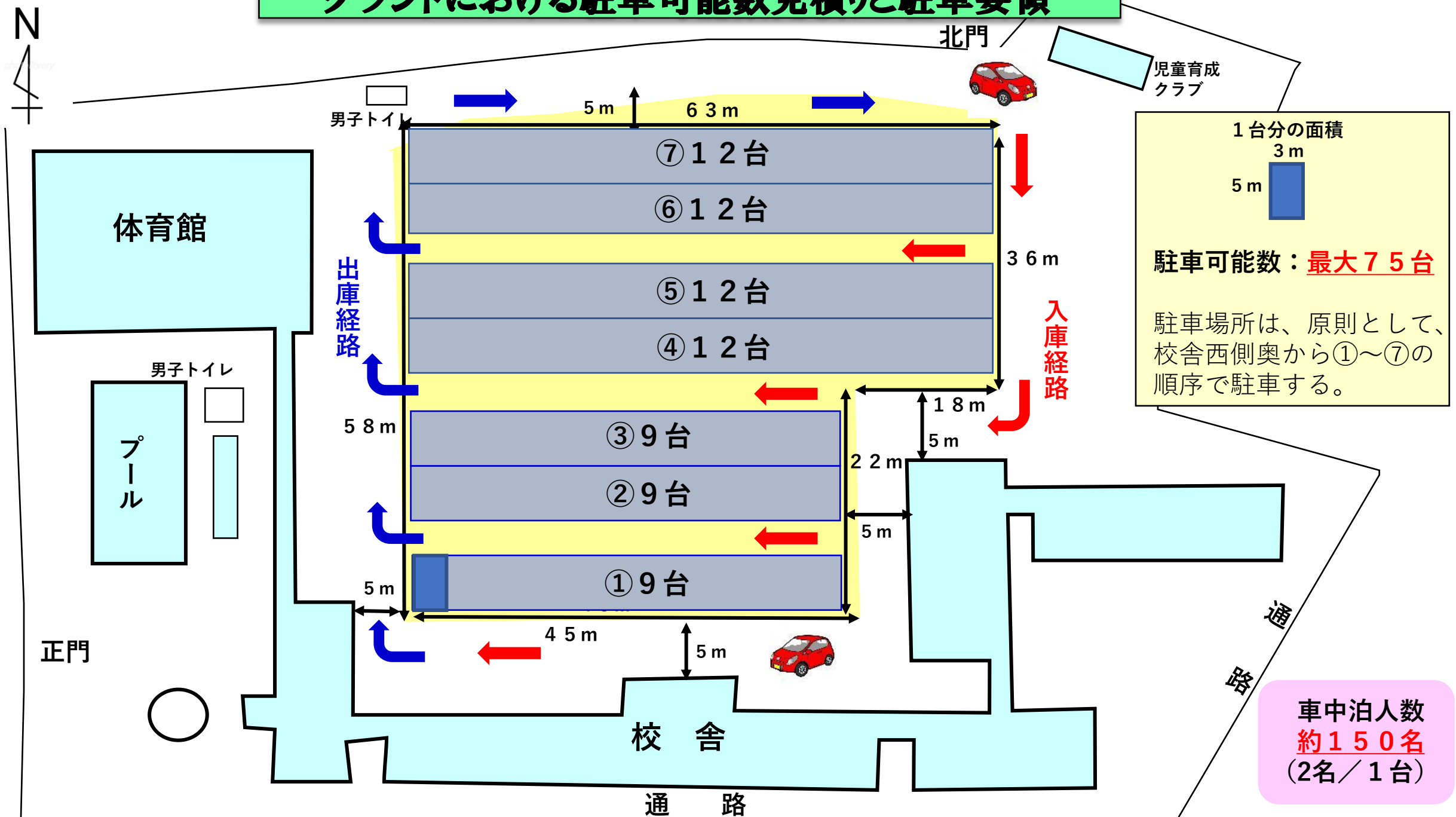
城北小学校避難所の各施設等の全体レイアウト



避難区分	
一般避難者	体育館 校舎東側(2･3Ｆ)
要配慮者	校舎1F
発熱者	校舎西側（2F）
濃厚接触者	校舎西側（3F）

避難収容数	
一般避難者	約１００名
要配慮者	約４０名
発熱者	約３０名
濃厚接触者	約５０名
車中泊	約１５０名
合計	約３７０名

グランドにおける駐車可能数見積りと駐車要領



体育館の「避難スペース（一般避難者）」のレイアウト

収容人数

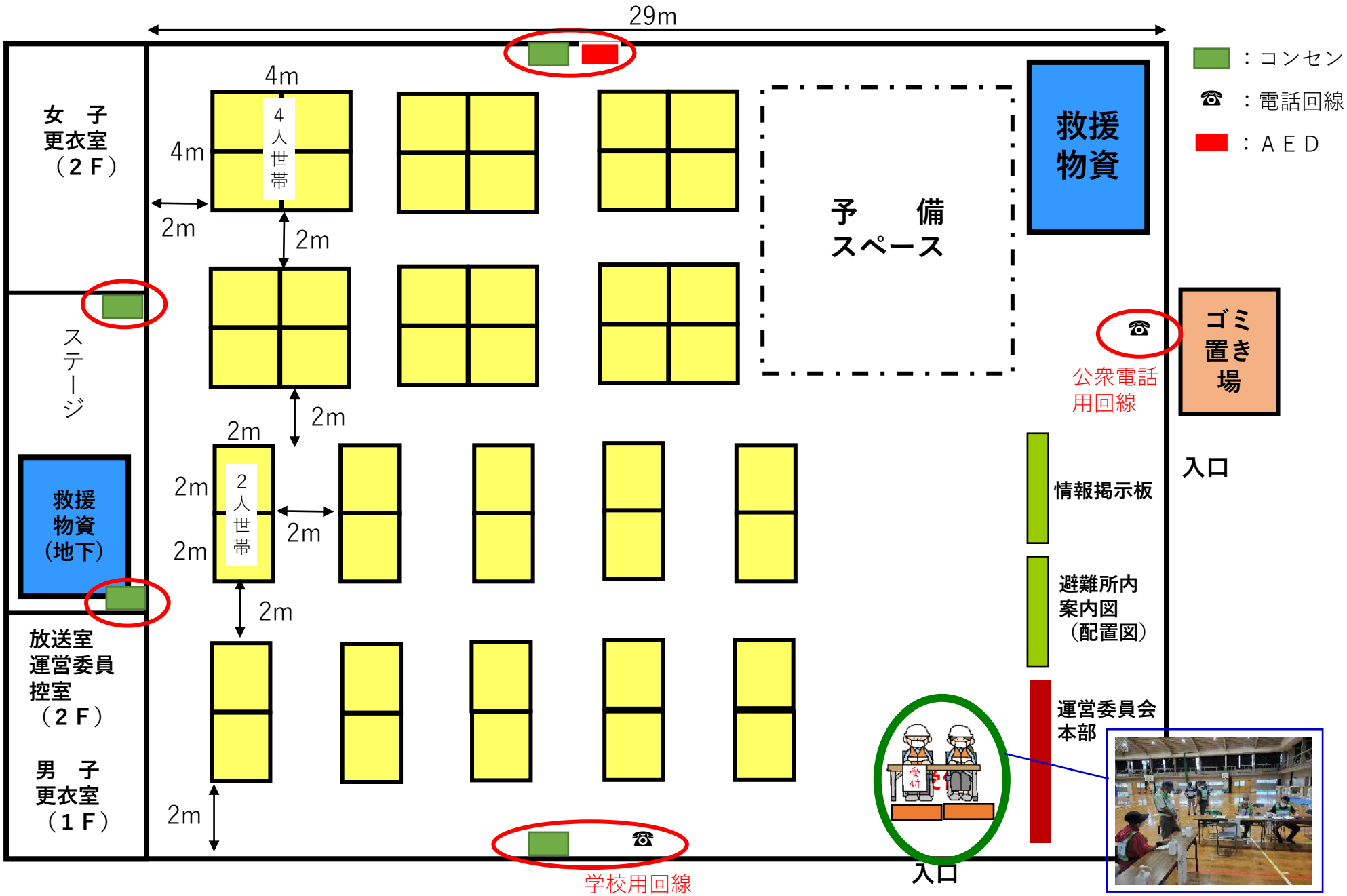
条件：**約４㎡／名**

２名世帯×１０
＝２０名

４名世帯×６
＝２４名

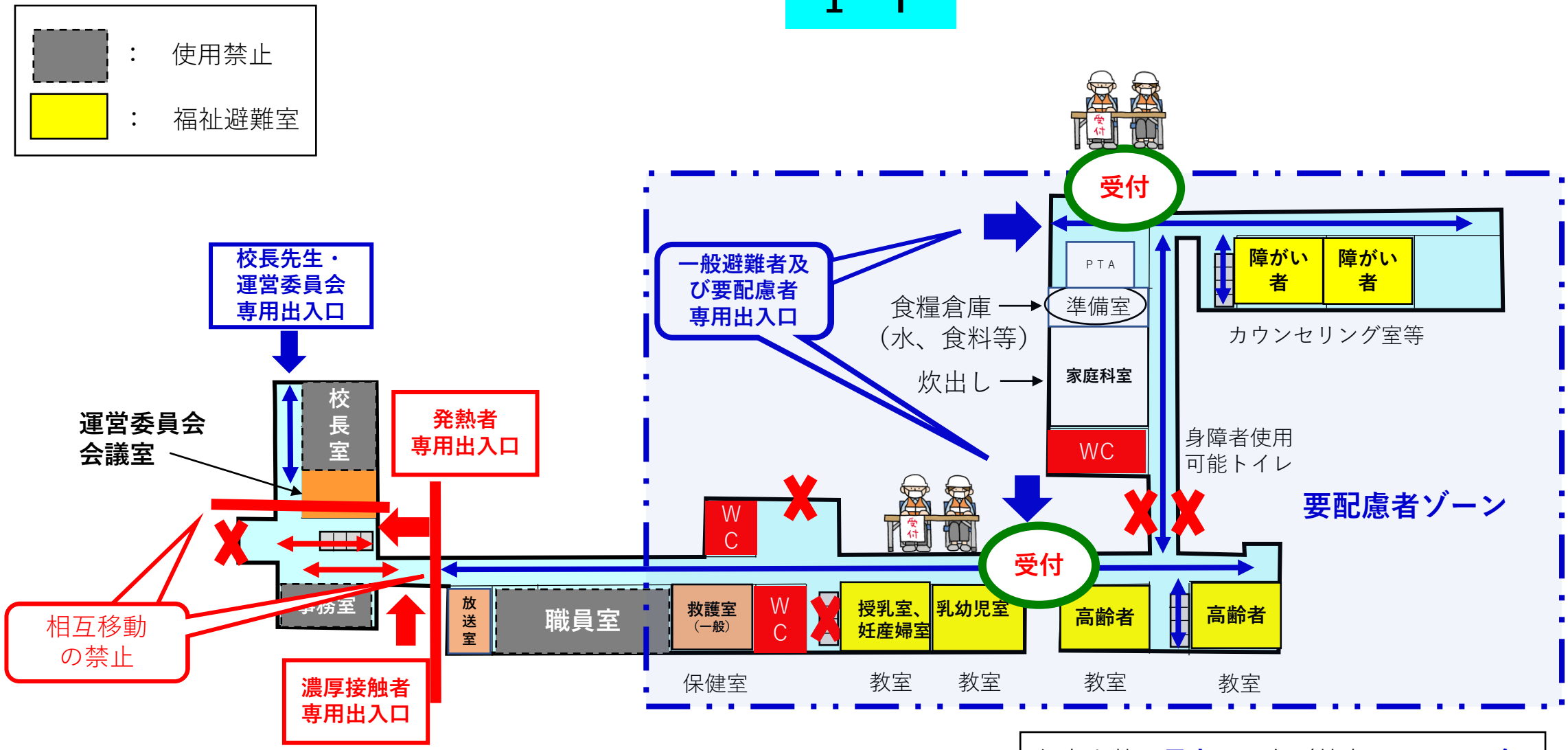
合計　４４名

【2022年9月**台風14号（特別警報級）**接近時の避難スペース実績値を反映】



校舎内の「福祉避難室（要配慮者）」

１　Ｆ



＊発熱者と濃厚接触者が専用出入口・階段付近
で接触しないよう移動統制（人員配置）が必要。

収容人数　**最大**：６名／教室×６＝**３６名**
最小：４名／教室×６＝**２４名**

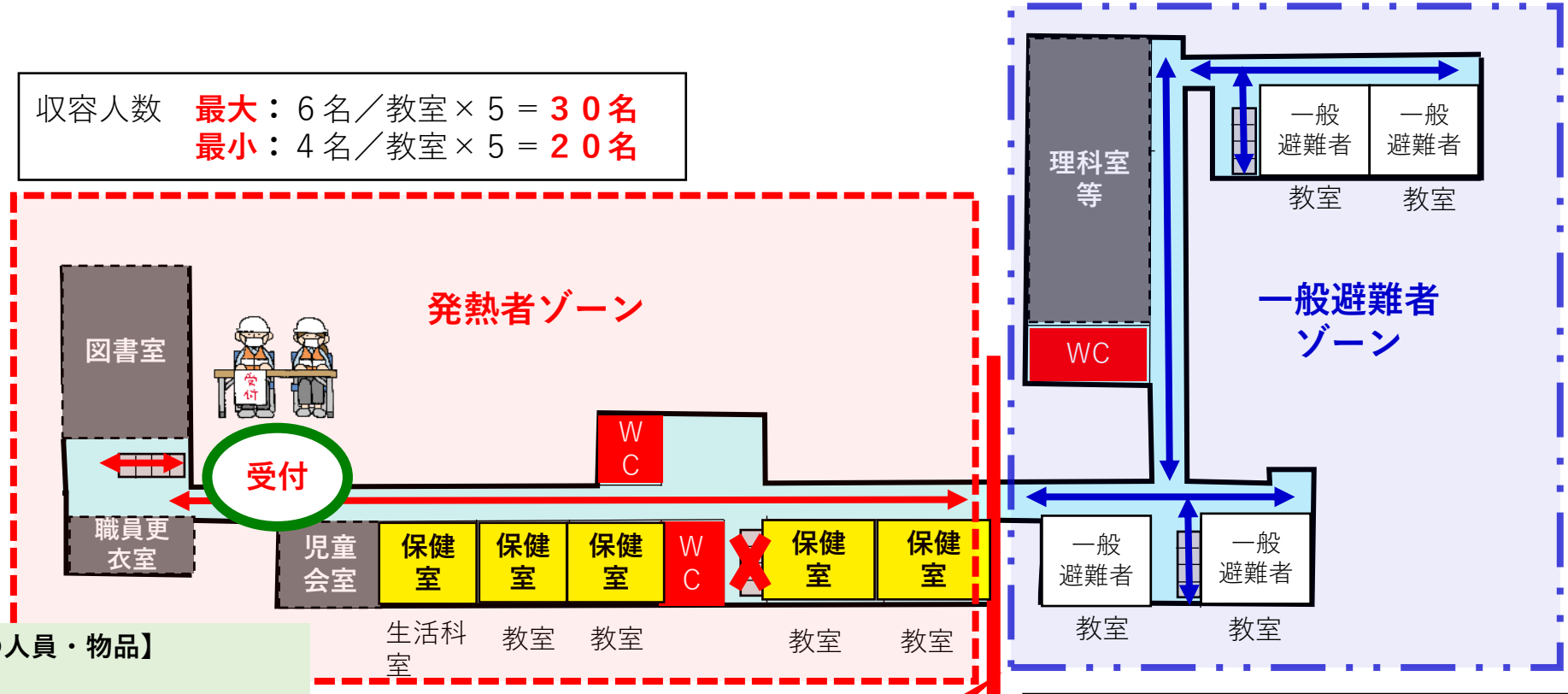
校舎内の「保健室（コロナ発熱者等）」

２　Ｆ

：　使用禁止

３Ｆは、西側に「濃厚接触者ゾーン」、
東側に「一般避難者ゾーン」を設定

収容人数　**最大**：６名／教室×５＝**３０名**
　　最小：４名／教室×５＝**２０名**



相互移動の禁止

収容人数　**最大**：６名／教室×４＝**２４名**
　　最小：４名／教室×４＝**１６名**

【受付の人員・物品】

①人　員
２名

②物　品
長机×１、椅子×２、体温計（非接触型）×１、フェイスシールド・ガウン・マスク使い捨て手袋・消毒液×所要数、避難者記入用名簿、ボールペン等

訓　練　風　景

自己紹介及び訓練の事前説明

検温・問診所の設定要領の説明

体育館の受付要領の説明

パーテーションの設置訓練

発電機の操作要領の訓練

情報発信（広報活動）

新地物語

もしもに備えて防災訓練！

城北校区防災訓練

熊本市は大規模地震を想定した「震災対処実働訓練」を４月 17 日に実施しました。これに合わせ清水中、城北小でも城北校区防災訓練が行われました。

この訓練は、コロナ禍における避難所開設や運用要領の中で重要な内容に絞り、その概要や手順について参加者の認識共有を図ることを目的としています。

訓練では、避難者受け入れ時にコロナ対策としての検温や熱があった避難者の扱いをどうするか、現場でのソーシャルディスタンスを保つためのレイアウト、収容人数の概数などの確認がありました。

また、備蓄品の数量や賞味期限の確認、避難時に必要な物の確認なども行い訓練は終了しました。コロナ禍での避難を想定した訓練ということもあり、参加者からはいろいろな課題提起や意見などが挙がっていました。

熊本県民テレビ（てれビタ）【目からうろこの防災術】

八景水谷公民館だより

熊本地震のような大地震に備えよう

円滑な避難所開設・運営を

城北小を会場に対処実働訓練

熊本地震のような大規模地震に備えようと、今年度の市震災対処実働訓練が去年10月16日に市内各地で行われ、八景水谷地区では城北小学校が会場となりました。

この日は城北小学校避難所運営委員会の真嶋弘治委員長（町内会長）をはじめ行政、町内会、学校関係者ら21人が参加。真嶋委員長あいさつ、自己紹介の後、早速訓練に移り、施設の開錠、安全点検など避難所の開設準備、避難スペース（レイアウト）の確認、高齢者など特に配慮が必要な避難者のための福祉避難室の確認、発熱者向けの保健室の確認、パーテーションの設置訓練、マンホールトイレの説明などが行われました。

参加者からは「救護用品はこれで足りるのか」「八景水谷でも外国籍の住民が増えている。会話冊子のようなものが必要では」などの意見が出ていました。

くまもと県民テレビの取材もあり、後日「みんなでつくる避難所って？」と題して訓練の様子が放送されました。

訓練の進行を担当した松本康宏総務部長は「備えあれば憂なしです。もしもの時にスムーズに避難所の開設・運営ができるよう、今後は地域住民も参加できるような防災訓練を企画していきたい」と話していました。

災害用に備蓄している救護用品の確認も行われました＝城北小体育館

４　今後の課題と対策

	課　　題	対　　策
避難所勤務者（人）	大規模震災発生時に**集まれる勤務者の不足が懸念**され、避難所の開設・運営に影響（理由：仕事、被災、体調不良等）	**多くの勤務者等の各種訓練参加により、避難所開設・運営経験者を努めて増加・確保**（勤務者全員対象（学生参加も呼びかけ））
	震災初動において**錯綜・混乱する避難所運営の実態を知らない人（未経験者）が多い**為、避難所の開設・運営に影響	**①避難所運営ゲーム（ＨＵＧ）**の実施（錯綜・混乱する避難所運営の疑似体験） **②防災講話**の実施（熊本地震・豪雨経験者） **③避難所開設・運営訓練**の段階的な実施 **★勤務者全員による訓練（機能別）** 受付、情報収集・掲示、要配慮者誘導、駐車場誘導、炊出し、トイレ設置など **★住民（避難者等）参加による訓練（総合）**
備品等（物）	**コロナ感染防止対策用備品の不足**（体温計、アクリル板、ガウン、フェイスシールド、消毒液など）	**少量は校区防災連絡会で購入、不足分は、熊本市に要望**し、平素から初動対処分を確保

５　ま　と　め

「喉元過ぎれば、熱さを忘れる」

「天災は、忘れた頃にやってくる」

↓

「備えあれば、憂いなし」